



身近になったけれど

校長 佐々木 秀之

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉のとおり、うだるような暑さがいつの間にか爽やかな風へと変わり、虫の声の便りが聞かれるようになってきました。新型コロナウイルスは、私たちの生活を一変させ、2学期以降に予定している行事の多くも延期または中止せざるを得ない状況にあります。しかし、校庭、校舎には子供たちの元気のいい爽やかな声が戻りつつあります。

＊

さて、経済協力開発機構（OECD）による国際的な学習到達度に関する調査「生徒の学習到達度調査（PISA）」の2018年の調査結果では、「読解力の低下」が話題になりました。日本の結果を見ると、OECD加盟37か国中、「数学的リテラシー」が1位、「科学的リテラシー」が2位と世界トップレベルですが、読解力は前回の6位から11位に下がりました。

読解力の低下が心配される中、国立教育施策研究所が公開している「2018年調査補足資料（生徒の学校・学校外におけるICT利用）」によると、日本の教育におけるICT活用状況は、授業でICTを活用しない国ナンバーワン、コンピュータを使って宿題をしない国ナンバーワンとOECD加盟国の中で最低となっています。

一方、「学校外での平日のデジタル機器の利用状況（余暇）の国際比較」では、「一人用ゲームで遊ぶ」については調査参加国中1位で、「遊び」でデジタル機器を使う国ナンバーワンとなっています。

日本の子供たちは、日常的にデジタル機器に触れ、使いこなしているにもかかわらず、学校での学習と学校外での学習が、子供たち個々のデジタル機器とリンクせず、「遊び」にばかりデジタル機器を利用しているというのが現状のようです。

＊

現在、パソコンやスマートフォンなどの情報通信機器は、気の利く個人秘書のような認識力や知識、表現力を持った機能が開発され、目覚ましく発展しています。そして、これらは高級ホテルのコンシェルジュのように、時間と場所を含む利用者の状況や、時には利用者が気付いていないような状況も把握した上で、適切にアドバイスや情報提供したりするまでになっています。

＊

一方で、カメラを内蔵し手軽に動画を撮影でき、高速回線を通じて手軽に動画を公開できるスマートフォンが登場したことで、子供たちがトラブルに巻き込まれる例も少なくありません。

現在まで、本校の子供たちに大きなけがや事故、トラブルに巻き込まれたということはありませんでした。今後も、子供たちが生活を送ることができるよう、努めてまいります。保護者の皆様にも、ご家庭でのパソコンやスマートフォンの使い方についてご協力いただきますよう、お願い申し上げます。